

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1F)

| | | | |
|---------|--------------|-------|---------------|
| 事業所番号 | 0692600034 | | |
| 法人名 | 株ジェイバック | | |
| 事業所名 | もも太郎さん高島 | | |
| 所在地 | 高島町大字深沼191-3 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 4年 1月 4日 | 開設年月日 | 平成22 年11 月1 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田楽風景に囲まれ季節折々の流れを感じられる施設です。地域の方に支えられながら利用者様と共に生活をしており、職員はケアをさせていただいている意識を忘れず常に利用者様と向き合える環境となっております。これまでの生活リズムを変える事がなくアットホームに生活できる施設です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|---------|--------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 エール・フォーユー | | |
| 所在地 | 山形県山形市小白川町二丁目3番31号 | | |
| 訪問調査日 | 令和 4年 1月 27日 | 評価結果決定日 | 令和 4年 2月 14日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は田園や果樹園に囲まれ、四季が感じられる恵まれた環境の中に立地しています。利用者は比較的自由度の高い方が多く、台所に入って調理を手伝うなど今まで培ってきたそれぞれの能力を活かして日常生活での役割を担い、ホールでは皆で談笑したり歌謡や民謡を歌い、脳トレニング・体操なども行って楽しく過ごしています。家族との絆を大切に家族部屋(夫婦で入居)も用意して、職員は利用者の会話を大切にしながら利用者が何を望んでいるのかを聞き出し叶えてあげられるように、また楽しく笑顔で過ごしてもらえるように支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 55 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 62 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 56 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 63 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 57 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 64 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 58 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 61 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

| 自己外部 項目 | | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|--|
| | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 施設独自の理念を掲げ実践に繋げている。朝礼時唱和を実施し理念の重要性を高めており、個々に評価の為に面談等を実施している。 | 職員は理念に沿って半年ごとに自己目標を立て、行動を振り返りどこまでできたかレポートを作成し、管理者から面談時に達成度の確認と指導をもらっている。理念の周知度を確認しながら毎日の介護支援に対して職員を労い、感謝の言葉を伝えている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナの影響もあり地域の方との交流もできず。時間をつくり出向き途切れないよう工夫している。また、民生委員の方を通じて施設としてできる事をして実践してしている。 | 町内会に加入して地域との交流を図り理解を得ている。回覧板で事業内容や行事等の情報を提供し、民謡や歌謡・手品等のボランティアを受け入れて利用者の喜びと笑顔が観られていたが、今はコロナ禍で交流を自粛し感染防止に努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地区民生委員の方に入居状況や空き状況をお伝えし困っている方がいれば当グループホームできる認知症ケアの支援等をお伝えしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は現状として開催されておらず行政・民生委員に報告を実施。内容として入居状況と平均介護度・日常生活状況・行事等の報告となっている。 | 会議には町担当者や町内会長・民生委員・利用者代表や家族等・管理者及び職員の構成で実施していたが、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で報告書等により書面開催となっている。意見・要望等は、その都度聞き入れ介護等に取り入れ改善に繋げている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 町行政、住民課の方々に相談、指導、助言等をいただくなど連絡を行い、事業所の取り組み方や同事業の情報などの確認を実施している。 | 町担当者と常に連絡を取り合い、助言や指導をもらうなど良い関係を築いている。研修資料を頂いたり夫婦で入居できる家族部屋への入居など相談や調整で連携している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる | 外出も困難な状況ではあるが利用者様の生活背景を観察し、適切な声かけを実施し不安を取り除き鍵を掛けないよう見守りしている。また、職員全員が身体拘束の理解をしている。 | 身体拘束・事故防止委員会を設置して3ヶ月毎に身体拘束等の適正化のための対策を検討し、身体拘束廃止委員会も定期的に開催している。ユニット毎に教育委員会が主体で研修を行い、統一した介護に繋げている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高島町包括支援センターより資料をいただき虐待の種類など定期的に勉強会を実施し知識向上に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在は成年後見人制度を利用されている入居者様はいらっしゃらないが資料をもとに知識、理解を深めていく。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際、契約書の重要事項説明書の内容を読み上げ同意を得ている。不安や疑問点があれば説明も実施している。また、個別に相談を受けるなどして、安心していただけるように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様の意見や要望を気軽に発していただけるように”意見箱”を設置している。利用者様の近況情報なども”もも太郎さん便り”にて報告している。 | 意見や要望はあまり出てないが、会話が少ない・表現しづらい方には原因を探り、職員を替えたり静かな環境を考慮したり工夫し聞いている。出された要望等を申し送りノートやケース記録に残し、職員間で共有を図りながら計画や運営に反映させている。 | |
| 11 | | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月定例のミーティングとユニット会議は書面にて回覧にて共有。環境面に配慮し自由に意見を言える環境がある。意見交換をして聞く機会を設け運営に反映させている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者、主任は職員と常に話合える環境が確立されており、施設全体の状況の把握を行っている。また、管理者は職員の個人面談等で職員の意見を反映し環境、条件等の配慮するようにしている。 | | |
| 13 | (7) | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | OJTを活用してできる範囲とできない範囲を明確にしケアの統一をできるように実施している。今年度は社外の研修は難しいが介護技術研修会を設ける等実施して知識を高めている。 | 年間研修計画に基づいて、法令遵守・感染症対策・身体拘束・プライバシー保護等の各種研修を行い、職員の資質や介護技術の向上を図っている。職員が何でも話せるような環境をつくり、段階に応じて多くの職員が受講できるようにしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 14 | (8) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 同業との交流はできない年度でもあり、町内の管理者等に確認し情報得て自施設に活かしている。 | 町内のグループホーム管理者と連絡を取り合い、コロナワクチンの接種・収容の空き人数・待機者等の状況を電話等で相談するなど交流を図っている。他事業所からの実習生を受け入れ、介護技術や利用者との会話などを通して質の向上に繋がっている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前調査時、現在の生活の様子や昔から行ってきた事、これからも続けていきたい事を聞き、同じ生活ができるよう提案している。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様には小さな事でも話していただけるように心掛け関係を保っている。話をすることで本人の情報を共有できる。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、ご家族様から話を聞き、本人に合った支援を提案している。どちらかの意見に片寄ったものではないよう対応している。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ケアを実施する時は、声掛けを実施し出来る事はご自分で実施していただいている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月「もも太郎さん便り」を発行し担当者からのコメントにて近況報告を行っている。御家族様からの要望を取り入れながら関係づくりを構築している。 | | | |
| 20 | | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者の生活歴を振り返り馴染みの人や場所をいつでも思い出せる会話の提供を実施し支援している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | お茶やレク等の時間など利用者様同士が関われる環境を多く見つけ共同生活ができるよう努めている。 | | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他施設へ入所された方でも御家族様に電話にて近況をお伺いしている。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様との会話で昔の事やどのような心境にいるかを視聴し要望があれば御家族様に確認をすることができる範囲で要望を受け入れている。 | 入居時に利用者や家族等から思いや意向を聞き取り把握しているが、アルバムなどを見て今までの生活環境を探りながら把握に努めている。また言葉で表せない方には表情から思いや意向を理解し支援している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 実態調査で分からない部分は、御家族の方に再度確認し日常の会話から情報を得ている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常変化を職員同士で共有しできる限り在宅での生活スタイルを崩さないように実施している。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 心身の状態の観察を実施し小さな変化でも職員間で共有しユニットケアとしてカンファレンスを行いその時々状況に応じた介護計画を作成している。 | 本人の情報や意見を組み入れ短期・長期の目標を設定しプランを作成している。毎月のケア会議で担当職員からの情報や意見をもとに全職員が関わり検討している。見直しや変更は3ヶ月毎に実施し家族等にも説明して理解を得ている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録は日常生活に関わる事でケアプランの項目に沿って記録する事で問題点や様子を共有できかつプランの見直し行いやすい記録を残すようにしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 28 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 現在は地域との交流もできなく本人様のできる事を編み物等の作品を作成し展示して頂く事などを実施している。 | | | |
| 29 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月二回の往診をお願いしており、往診前に事前に利用者様の状況や変化を画面にてお渡しし迅速な対応が可能な状態を保っている。 | 本人・家族等の同意のもとで協力医療機関を主治医とし、定期的に往診を受けて不安なく過ごしている。コロナ禍の中で皮膚科や眼科などを含めて緊急性がない場合には、感染予防対策として医師の指示で処方箋のみに変え、受診結果についても家族側に電話で報告し情報を共有している。 | | |
| 30 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | R4/1/11より看護師を配置専門的な観点から利用者が1日でも長く生活できるように支援する体制をとる予定となっている。 | | | |
| 31 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院されている病院の相談室や連携室、担当看護師に連絡を実施し情報交換を実施している。 | | | |
| 32 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる | プラン作成前、ご家族様が来所された際、現在の状態と延命の有無を説明し施設側の支援についてご理解を得るようにしている。また、状態変化があれば御家族様に来訪いただきカンファレンス実施しグループホームできる範囲の説明を実施し記録に残している。 | 重度化した場合の対応について、初期の段階で丁寧に説明を行い利用者・家族等の意向を確認している。容体が変化し継続的医療が必要となった場合には主治医の指示の下で介護老人保健施設や病院等への転移を促し、適切な医療を受けられるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 33 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | AEDが施設にある為、施設内で使用方法について研修を実施している。定期的に避難訓練も実施している。 | | | |
| 34 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 日中・夜間想定での避難訓練時消防署員より助言、アドバイスを頂き参考にしたり備蓄倉庫の確認やミニ訓練を実施して緊急時の備えている。 | 利用者の迅速な避難と安全確保を重点に訓練を行い、災害発生時の対応行動を確認している。災害に備えて食料品等や生活必需品を備蓄し、職員の応援体制や地域との協力体制も確立している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 35 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者様の生活歴を熟知した上で、守秘義務を守り声掛け対応を実施している。 | 今までの生活歴や性格などを把握し、誇りやプライバシーを損ねないように言葉かけに注意してケアを行っている。排泄や入浴は同性による介護を基本にして対応し、髪形や服装などの身だしなみを整えてあげるなど利用者様の自主性と人格を尊重し支援している。 | | |
| 36 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様が常に自分自身の希望を表現できるように声掛けをしている。 | | | |
| 37 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様が自由に過ごせる様に個人のペースに合わせて生活ができるように支援している。 | | | |
| 38 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者様の希望に合わせた洋服選びを心掛けている。希望に合った散髪も出来るように支援している。 | | | |
| 39 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 旬の食べ物を聞きながら、食べたいメニューを聞いたり、作り方を教わりながら食事を調理しています。できる方は食器やお膳ふきを手伝って頂いています。 | 食事は野菜と適度な肉や魚を使って調理し、食感を大事にして提供している。メニューを掲示して食卓に笑顔を届けられるようにし、手伝いの出来る方には手伝ってもらうことで心身の維持向上に繋げている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 嚥下機能が低下している利用者様にはミキサーにて対応できるよう実施し必要であれば補助食品を活用するなど栄養のバランス保つ支援をしている。 | | |
| 41 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 義歯の方は就寝時にお預かりし除菌洗浄。自歯の方は食後歯磨きを実施して頂き、必要な方には職員が付き添い支援している。 | | |
| 42 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | できる限りトイレでの排泄を支援し、必要とされる方には排泄パターンやその時の状態を把握して、その人に合ったトイレ誘導を実施している。 | 排泄チェック表で状態を把握して、動作や表情を見ながら自立排泄を目標に支援している。尿意を感じなくても時間を見て誘導したり身体機能に応じて歩行介助を行い、失禁した場合でも言葉がけに注意し、自尊心を傷つけないように対応している。 | |
| 43 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | できる限りトイレでの排泄を支援し、必要とされる方には排泄パターンやその時の状態を把握して、その人に合ったトイレ誘導を実施している。 | | |
| 44 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 時間決めず入浴して頂けるよう支援している。拒否がある場合は職員を変え入浴して頂ける声掛けを実施している。 | 入浴は二日に一回午前と午後に分けて行い、バイタルを測定してから入浴している。希望すれば毎日でも入浴することが可能で、全員に入浴介助を行いながら身体状況の確認や見守りに徹し事故防止に努めている。 | |
| 45 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は、本人の希望に合わせてホールや居室で寛いで頂き、夜間なかなか寝付けない利用者様にはホールにて話を聞いたり暖かい飲み物を提供し入眠を促している。 | | |
| 46 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 受診後に届く薬は各利用者様のケースファイルにて職員が目を通す事ができるようになっている。薬が変更された時には申し送りを実施し状態の記録を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 47 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 外出は困難な為ホーム内で実施できるおり紙・トランプ・スクラッチアート等を準備し常に利用者との会話を多くするよう心掛けている。 | | | |
| 48 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 今年度は散歩やドライブができなく利用者様の意向・希望に沿った支援ができていない為、代わりにレク活動や写真等を活用しお過ごし頂いている。 | コロナ禍の中で極力外出を自粛し感染防止に努めている。ユニット間の交流もままならないため、利用者が気力をなくさないように午前と午後に体操を行い、トランプやオセロゲーム・カラオケなどで楽しみ、談笑したりぬり絵などをして和やかに過ごしている。 | | |
| 49 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者様の状態に応じて所持されているが、基本的には持ち込んで頂いていない。必要であれば職員が買い物を実施し立替にて対応している。 | | | |
| 50 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 御利用者様の希望で御家族、親類の方に電話かけ取次ぎを実施する他、手紙の投函の支援も実施している。 | | | |
| 51 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有のホールには季節感のある花を飾ったり、芳香剤等を置き、リラックスできるように配慮している。利用者様が作成した作品も飾っており、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | にぎやかな飾りつけは控えて生活感や季節感のあるもので家庭的な雰囲気になっている。誕生日やイベントの写真とみんなで作ったクリスマスツリー・カレンダーなどを飾り、利用者は自分の手掛けたところを眺めて喜んでいる。コロナ禍の中で消毒と喚起を徹底し感染防止を図っている。 | | |
| 52 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 歌番組が好きな方には、録画したものをかけたりトランプ・オセロ等好きな方は職員や、利用者様同士で楽しんでいます。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 53 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人がご自身のもを認識している衣類や、家具等をもってきていただくよう持ち込みをお勧めしている。思い出に残っている写真などを飾っていたいっている。 | 居室は今までの暮らしとギャップを感じさせないように、その人の思いを尊重して自由に設えている。人形や写真などを持ち込み、中には洋服ダンスも持ち込んで自分らしい居室を作り、配置は身体機能や動線に配慮して事故なく穏やかに暮らせるようにしている。 | | |
| 54 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの入室表示や居室扉の表札、洗面所には自身の物に名前を付けたり工夫している。手すりの設置、居室内での家具の配置等で自立した暮らしができるよう配慮している。 | | | |